

# あきたの 地域医療通信

2012年9月 第14号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



秋田県内で最も救急患者受入数が多い（年間約23,000人）秋田組合総合病院の救急・総合診療部。そこに勤務する医師が救急患者の対応だけではなく、自ら訪問診療も行っているとのことで同行取材をしました。



とある木曜日の午後3時過ぎ、秋田組合総合病院の駐車場から1台の小型車が出て行きます。運転するのは、秋田県総合診療・家庭医研修センター副センター長も務める、桑原直行先生。自らハンドルを握り、運転すること約20分。国道沿いのお宅に入っていきます。

玄関から部屋に入ると、一人の高齢の女性がベッドに横たわっています。桑原先生は、お婆さんの手を握りながら声をかけますが、耳が遠いのかあまり反応がよくありません。このお婆さんは脳出血の後遺症から寝たきりになっています。介護をしているご家族に、食事の状況や便通を確認後、診察を行い、最後にお婆さんに声をかけて家を後にしました。

次に着いたのは、2階建ての最近できたショートステイの施設。ここでは二人の患者さんを診ます。施設の看護師さんと一緒に部屋に入り、家族と最近の状況を確認しながら、患者さんの血圧を測ったり、薬の残量をさりげなく確認し、診察を終えました。

そしてまたすぐに車に戻り最後の訪問先に向かいます。勝手を知った裏口から、声をかけて入っていく桑原先生。この女性の患者さんは、糖尿病から片足を切断、一人暮らしをしています。ベットに起き上がっている患者さんと会話が弾みます。帰り際、患者さんから手が痒いという訴えがあったため、後日処方の上、薬を訪問看護の際

に届けることを伝え、診察は終了しました。

そこから病院に帰着したのは午後5時少し前。こうしてこの日の約1時間30分の訪問診療は終了しました。

その後のインタビューです。

## 訪問診療に至ったきっかけ

私が医師2年目の時、先輩が担当している訪問診療の患者さんを先輩に代わりに診ることになりました。このとき初めて、寝たきりで床ずれの酷い高齢の患者さんが日当たりの良くない奥の部屋に1人寝かされているなど、訪問診療における医療の現場を目の当たりにしました。以降、訪問診療における医療提供のあり方について、自分なりに考えていくようになったと思います。



桑原 直行 副センター長

また、私はこれまで脳神経外科の領域を中心としてきましたが、例えば、手術は成功したとしても、後遺症で通院困難な状態となる患者さんも多く、こうした患者さんを見送る度に、医師としてその後の患者さんのフォローアップの必要性を強く感じるようになっていきました。



こうしたこれまでの経験を踏まえ、数年前に勉強のため、訪問診療の先進地を見学したこと、またそこで訪問診療に携わる先生方の熱意に触れたこと、これが訪問診療に取り組むことになったきっかけになっていると思います。

### 現在の訪問診療の状況

現在は救急総合診療部等での業務を行っていますが、この業務を火曜日と木曜日の週2回は15時過ぎに一端区切りをつけて、そこから訪問診療へと出かけています。

患者さんは、同院の退院支援室へ訪問診療を相談し、退院した方々になりますが、今現在は23名の患者さんを診療しています。しかし、本院においても訪問診療については非常に多くのニーズがありますが、医師や看護師のマンパワー不足は否めず、正直なところ全ての要望に応えることはできていないのが現状です。

### 後進の育成

やはり多くの大学医学部における教育の中心は、治療治癒に係るキュア【cure】にあるものと思います。実際、私の学生時代はそうでした。

初期対応は非常に重要になりますが、患者さんにとってはその後も人生は続いていきます。こうした意味において訪問診療や緩和ケアを通じ、最後まで患者さんと向き合っていくことも非常に重要であると思っています。

特に少子高齢化が加速度的に進む本県においては、複合的に疾患を抱える患者数の増加とともに、高齢者の独居生活や老々介護、遠距離介護などの問題は避けることはできなくなると思います。

訪問診療は当然医師だけでできるものではありませんが、これからの医師には、キュア【cure】に加えて、ケア【care】の能力もこれまで以上に求められていくもの



訪問診療で患者さんに声をかける桑原先生

になると思っています。

現在、私は外部講師として秋田大学医学部の3年生に在宅医療の領域を講義したり、訪問診療の現場で学生の早期体験実習を指導をしたりしています。

こうした教育を通じて、将来の秋田の訪問診療を支える力が増えてきてくれることを期待しています。

### 秋田県総合診療・家庭医養成プログラムと 日本在宅医学会認定専門医

本年4月より本院において「秋田県総合診療・家庭医養成プログラム」がスタートしています。本プログラムの研修医は、本院の救急総合診療部に所属し、日々充実したトレーニングを積んでいます。研修修了後には、内科専門医、家庭医療専門医に加えて、希望により「日本在宅医学会認定専門医」の受験資格も取得することが可能です。つまり、本プログラムでは、初期対応から治療そしてその後のキュアに係る部分まで、幅広く学ぶことできるカリキュラムを揃えています。

したがって、将来に渡って非常に有意義な経験を積むことができるプログラムとなっていますので、興味のある方は遠慮なくご連絡願います。一緒に学んでいきましょう。

総合診療・家庭医養成  
プログラムの研修を  
見学してみませんか？

平成24年4月から研修がスタートしています！！

実際の研修風景や研修施設の見学は、随時受け付けていますので、お気軽に御連絡ください。



●お問い合わせ●

秋田県健康福祉部 医師確保対策室

TEL: 018 (860) 1410

e-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp



# 秋田県医学生スキルアップセミナー

## 開催の御案内

医学部に在籍する皆さんを対象に今年も「医学生スキルアップセミナー」を開催します。秋田大学医学部生をはじめとする県内外の医学生との交流会や、C B T・国試対策主要ポイントセミナー、初期研修医のケースカンファレンスの見学など、「交流と研修」がその内容です。C B T試験や国家試験を控えた3～5年生を中心とした皆さんの御参加をお待ちしています。

**1 期 日** 平成24年10月27日(土) 午前9時～

**2 会 場** ホテルサンルーラル大潟(大潟村)、第一会館本館(秋田市)

### 3 実施内容

- (1) 初期研修医ケースカンファレンス見学(大潟会場) = 午前 =
- (2) C B T・国試対策主要ポイントセミナー(秋田会場) = 午後 =
- (3) 医学生交流会(秋田会場)

### 4 参加費・送迎

- ・参加費は無料です。県外から御参加の方については旅費を支給します。
- ・秋田駅(秋田空港)から大潟村会場まで、大潟村会場から秋田会場まで送迎します。

**5 募集定員** 40名程度(県内30名、県外10名)

**6 申し込み** 秋田県健康福祉部 医師確保対策室  
TEL:018(860)1410  
e-mail:ishikakuho@pref.akita.lg.jp



医師臨床研修指導医  
ワークショップを  
開催しました。



今年も平成24年6月29日(金)から30日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に「医師臨床研修指導医ワークショップ」を開催しました。(独)国立国際医療研究センター病院医療教育部の村岡亮先生、福井大学医学部地域医療推進講座の寺澤秀一先生、中京大学法科大学院の稲葉一人先生、揖斐郡北西部地域医療センターの吉村学先生などから講義をいただき、積極的なグループワーク等が行われました。また、昼夜を問わず、日々の診療などに係る濃密な情報交換が行われました。





# 指導医メッセージ

秋田大学医学部附属病院  
整形外科 助教  
野坂 光司 先生



大学を卒業するとき、秋田に残るか、何科にすすむか、ノイローゼになるほど悩みました。今は秋田で整形外科医になり、本当によかったと思えます。

学生時代や研修医の頃は、都会の大病院で働けば立派な医師になれるような錯覚に陥りがちです。自分もそうでした。

いろいろな大病院を見学に行きました。しかし、見知らぬ土地の大きな医局の中で確固たるポジションを獲得するということは、自分の血の滲むような努力の他に、愛情を持って自分を指導してくれる師に出会うという人並みはずれた幸運が必要です。今にして思えば、たかだか

1日や2日の病院見学で自分の一生の進路を決めるなど、あつてはならないことだとさえ感じます。

学生時代の病院実習や医師免許取得後の初期研修で、医師としての力をつけることと自分の適性を知ることよりも大事なことは、自分の目指したい先輩医師(医師像)を見つけることだと思います。大切なことは研修するハコではなく、研修に真摯に立ち向かう自分の姿勢と、熱心に指導してくれる先輩医師の存在です。

残念ながら、どこの病院でも、真面目でデキるいいヤツなのに真っ昼間から一人医局で教科書を読んでいる研修医がありますが、これは放って置いている指導医の問題です。

教科書は真夜中にでも読みましょう。僕は研修医時代に尊敬する先輩に出会い、その人に憧れて整形外科に進むことに決め、その後も研究面、自分の臨床の専門分野でも、次々に立派な師と出会い、今も自分をいつも気にかけてくれるbossのもとで働くことが出来ています。母校に残らなければ、こうはいかなかったでしょう。

秋田県には全国を舞台に世界を舞台に活躍している多くの先輩がいらっしゃいます。

都会が全てではありません。母校に誇りを持ち、気心の知れた仲間達と秋田の医療を支えていきましょう。



## 市立角館総合病院

〒014-0394 秋田県仙北市角館町上野18番地  
TEL:0187-54-2111(代表)

当院の所在する仙北市は県内有数の観光地であり、市内には武家屋敷、田沢湖、抱返り溪谷等の観光名所の他、乳頭温泉郷等もあり観光で訪れたことがある方も多数いらっしゃると思いますが、当院についてはあまりご存知でない方のために、この場をお借りして当院のご紹介をさせていただきたいと思えます。

当院は地域住民の方々の健康を守ることはもとより、観光にて訪れる方に対しても安心して秋田県にいらしていただけるよう、適切な医療の提供に努めており、また、平成19年度より基幹型臨床研修病院として、初期臨床研修医の受け入れを行い、当院を巣立った医師が医療現場で活躍しております。

なお、現在は平成27年度の新病院建設に向けて職員一丸となり、取り組んでいるところであり、院内の雰囲気も活気に満ち溢れておりますので、是非、一度、病院見学等にいらしてください。

最後になりますが、当院で初期研修や後期研修をお考えの方は、歴史と文化の街「角館」を感じながら充実した時間をお過ごしいただけると思えますのでご連絡をお待ちしております。



### … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail : ishikakuho @ pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410